

公文式本市場教室 火・木 3~7時 TEL 61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3~7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

2019年

ホームページへGo!→
スマホで教室だよりが見られます



教室だより2月号

2月はなぜ28日までなのでしょう？

現在の暦の元になっているのは、古代ローマのユリウス暦という暦です。古代ローマでは、1年の暦の始まりは、現在の3月だったそうです。そして1年365日を12か月に割り振る時に、奇数の月は31日、偶数の月は30日に割り振り、余りの29日を最後の月の2月に割り当てて暦が作られました。

その後、各月の名前を正式に決める際に、7月はジュリアス・シーザーにちなんでジュライ、8月は初代ローマ皇帝アウグストゥスにちなんでオウガストと名づけましたが、この時、両者共に偉大な人物なのに、8月のアウグストゥスの月が7月のシーザーの月よりも短いのは、アウグストゥスがシーザーに劣っていると考えられるため問題となり、8月を7月と同じ31日までとし、最後の2月を29日から1日減らして28日（うるう年は29日）にしたといわれています。

そして、8月を31日にしたため、本来31日であった9月を30日に、次の10月を31日に、その次の11月を30日に、さらに次の12月を31日にしたとされています。

2月が28日までしかないのは、古代ローマ時代に、1年の最後の月が2月だったことと、初代ローマ皇帝アウグストゥスの威厳を守ろうとしたことがその理由のようです。

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“学校とは違った学習だから、興味をもって取り組める”

子どもは毎日学校でいろいろなことを習ってきます。

学校の教科書に出てくるからといって、家庭でも計算も図形も文章題もとすべてを同じようにおしつけられたら、子どもは勉強に興味をもてなくなるでしょう。算数が苦手な子どもなら、ますます算数嫌いになりかねません。

公文式はあくまでも家庭学習の立場にたつものです。学校でいろいろなことを教えてくれるのですから、家庭では的をしぼって、学校とは違った方法で長期的な見通しのもてる勉強をさせるべきなのです。

公文式算数・数学教材は高校数学が楽にできるために最小限これだけは欠かせないという問題を配列しています。数学ができない生徒のほとんどは、基礎的な計算力が不足しています。計算だけで大丈夫なのか、図形や文章題がないことを心配される方もありますが、計算力が高まっていくうちに数学的な感覚が身につく、学年相当の問題ならどのような内容でも楽にできるようになります。

2019年 2月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11 <small>本場教室の日</small>	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28		

本市場教室日 □

横割教室日 △

保護者様へお願い。

お休みのときは電話でもメールでも結構ですので連絡をお願いします。

2月分の会費引き落としは1月28日（月）です。よろしくお願いたします。

(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

教室からご家庭に連絡される生徒さんの場合は固定電話・指導者携帯電話・メール等はいずれも10円納入願いたします。

*学習終了後、学校の宿題をやってもかまいませんが、おしゃべりしたり、だらだらやる子は、即退出してもらいます。ご了承ください。

*ゆき子の一言コラム

公文式がめざしているのは単に数学や英語、国語の学力をつけて成績を上げることだけではありません。もちろん、学力をつけ、成績を上げる、という面においても他に例を見ない効果を上げていることは事実であり、とても大切なことですが、実は、公文式の真価は自学自習の態度と習慣を身につけるといふ点にあるのです。

自学自習の基礎となるものが読解力、すなわち本を読んで内容を理解できる力です。まず読書によって読解力を身につけてやり、さらに高度な内容を読めるようにするために、教材学習をさせているのだと考えていただきたいのです。そして幅広い読書を通して、子どもたちは人間性を養い、人生観を確立し、やがて社会に貢献できる人材として成長していくのです。

子どもたちに自ら学ぶ喜び、自分の力で進んでいける喜びを体験させて、実社会に出ても自ら学びながら成長し、物事に積極的に取り組んでいける人間に育ててほしいというのが公文式の願いです。

公文式学習法

1. この教材が能力を高める

家庭教育こそ、わが子にちょうどの内容を!

子どもは好奇心や知識欲が旺盛で、もともと勉強が大好きです。勉強がらいいは、その子にとって難しいことを無理にさせようとするから起こるのです。子どもを勉強好きにし、やる気を育てるためには、その子にちょうどの学習をさせることです。どの子にも、「すらすらできる」段階は必ずあります。その段階が、その子どもにちょうど合った学習です。

公文式では学年に関係なく、たとえば算教・数学の場合、5年生の子どもでも、その80%は小学1年生相当のたし算から学習を始めます。たし算ができないからではなく、容易にすらすらできる段階からスタートした方が、後々の伸びがよいことがわかっているからです。この考え方は、国語でも英語でも変わりません。

子どもはひとりひとり育ってきた環境が違います。したがって、当然、同じ年齢、同じ学年でも学力差があります。この学力差を無視して、同じ学年だからといって、一斉に同じ段階の勉強をさせたのでは、学力に合っているのは一部分の子どもだけで、とてもひとりひとりを勉強好きにはできません。学校ではやむを得ず一斉授業をしていますが、家庭学習では、まず現在のわが子の学力を見きわめることが大切です。

2. 0歳から大学教養課まで、切れ目なく揃った教材

公文式の教材は、どの教科でも、その子どもに最もふさわしい段階から学習をスタートでき、無理なく進めるために、次のように構成されています。

国語教材8A～2A、AI～LII・J～0教材の31段階

算数・数学教材6A～P教材の21段階

英語教材3A～0教材の23段階

で、童話を歌い聞かせる0歳相当の内容から始まり、各科の最終教材は大学教養課程相当までレベルアップします。それぞれの段階が200枚ずつのプリントからなっており、一貫した流れのもとにプリント1枚1枚が細かくステップ化されていますから、子どもはプリントを解き進むうちに、知らず知らずのうちに高い学力を身につけていくことができます。また、ひとつひとつのステップも、単調に上がり続けるものではありません。たとえば、数学3A教材の41番で「6+1」から「13+1」までを学習したら、42番では「14+1」からではなく、「7+1」から「15+1」までを学習します。44番は「7+1」から「16+1」までです。あるステップで達した最高レベルよりも、次のステップでは低いところから始め、それでいて最後は前のステップよりも高いところに進みます。このように構成された教材は、子ども自身にも、やがて自分は何の段階にまで進むか、とても勘定しやすく、目標を持ちやすいのです。自分の目標を持った子どもは、意欲的に学習を続けていきます。

*教室での決まりごと。

①はきものはきちんとそろえよう!

②あいさつは おおきなこえで はっきりしよう!

③もちものには なまえ をかきましょう!

④でんわをかりたら かならず でんわ代10えん いれてください!